

令和5年度 県立鉾田第一高等学校自己評価表

目指す生徒像		高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒 グローバルな視点と行動力を持った生徒		
三つの方針		具体的目標		
「三つの 方針」 (スкуль・ポ リシー)	「育成を目指す資質・能力に 関する方針」 (グラデュエーション・ポリ シー)	①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成 ②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成 ③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成 ＜本校生の未来の例＞ ⑦公的な機関で社会を支える。⑧医療従事者として社会を支える。⑨起業して社会を支える。⑩企業内のリーダーとして社会を支える。		
	「教育課程の編成及び実施に 関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	①生徒一人一人の多様な学習ニーズに対応する。 ②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する。 ③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる。 (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)		
	「入学者の受入れに関する方 針」 (アドミッション・ポリシ ー)	①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒 ②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒 ③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒 ④礼節を重んじて日常生活を送り、諸活動に積極的に取り組む意欲のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
日々の授業や計画的な小テスト等の実施により、基礎、基本の定着は見られた。しかし習得した知識、技能の活用に課題が残る。家庭学習時間においても、目標まで各年次1時間程度足りていない状況である。授業の中でICTを有効活用し生徒の感性に訴えたり、対話的な場面を設定したりする中で思考力、判断力、表現力の向上に繋げたい。また、より個に対応した課題の設定システムの構築等により家庭学習時間の増に繋げたい。		基礎学力・授業の質の一層の向上	・ICT環境を適切に活用して学習活動の充実を目指すとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。 ・知識、技能および思考力、判断力等向上のための家庭学習習慣を身に付けさせ、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。 ・基礎基本を定着させ（「課題テスト」「国語テスト」の年間計19回実施）、課題解決学習に繋がる知識、技能の充実および粘り強い学習姿勢の育成を図る。 ・教員間の授業参観と観点別評価の研究をなお一層推進し、職員の指導力及び授業の質の改善に努める。 ・指導力向上のため、職員が外部講習等に積極的に参加する。	・ICT機器の使用研修及び実践や授業の工夫により生徒の主体性を育む活動を取り入れながら授業改善を進めることができた。 ・平日の家庭学習時間について、全年次において＋1時間の確保が課題である。学習時間確保困難の原因を分析し、適切な支援に繋げたい。 ・授業力向上に向け、教員間の授業見学や教科内研修会を各教科で行い、指導力向上に繋げた。

共通テストへの変更やコロナ禍の影響で安全志向が見られ、学校推薦型選抜や総合型選抜で早期に進路先を決定する生徒が多かった。その一方で、最後まで第一志望を貫き、一般選抜で難関校に合格する生徒も多く見られた。リモートでの面接の実施など、試験方法も多様化しているため、正確な情報収集と、きめ細かな対応が必要である。 運動部、文化部ともに加入率が徐々に高まっており、県大会・関東大会・全国大会で活躍した。生徒の主体的活動を促すHR、委員会活動、学校行事についてより一層の内容の充実が必要である。 概ね落ち着いた生活環境であるが、制服の着こなしが整っていなかったり、ながらスマホが見うけられたりするなど、支援が必要である。総体的に自主・自立の生徒育成が課題である。本校が目指す生徒支援について、全職員の共通理解を図り進めていきたい。 情報発信量は増加したが、まだ最新のデータが外部に的確かつ速やかに伝えられていないことがある。学校評議員制度の活用やホームページ、フェイスブック、アンケート(Google Form)などの広報広聴活動を工夫する。 働き方改革については、教員の意識は高まってきているが、超過勤務時間が月45時間を超える教員が月平均約13人いる。ICTの活用、業務の見直しとともに、さらに意識を高めるため、声かけを積極的にしながら超過勤務時間の削減に努めたい。	個に対応した指導の充実	・対話的な学習における生徒観察やICT機器の活用等により、生徒の実態を的確に捉え、個別最適な学びの促進を図る。 ・手に届きやすい目標や題材の設定を行うなど授業の工夫を通して、習熟度別授業の指導を充実させる。 ・少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が主体的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。 ・振り返りやポートフォリオ等の蓄積により、各自の課題把握や自己の学習を調整する力を身につけさせ、学習改善に繋げる自己指導能力の育成を図る。	・学習支援アプリを導入し生徒の多様化に対応しやすい環境となり、個別最適な学びが充実した。 ・習熟度別授業や少人数授業において意欲や主体性の向上を図り、資質・能力の獲得に繋げた。 ・振り返り等により計画の見直しや既習事項の関連を考えるなど学習調整や改善に向けた意識が向上した。
	進路意識・進路実績の一層の向上	・本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。 ・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。 ・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。 ・大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し、収集した正確な情報を進路支援に活用する。 ・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。	・本校の進路指針に則って生徒の進路意識を高めることができた。 ・年次の進路行事を通して、生徒各自の在り方生き方への理解を深めた。 ・個別面談を充実させ、早期に進路目標を明確化させることができた。 ・Webによる分析会等を活用し、最新の進路情報を収集・集約できた。
	特別活動・部活動の一層の活性化	・学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。 ・部活動においては、限られた時間で工夫した指導を行い、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。 ・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することにより学びを蓄積するとともに振り返りを行う。	・生徒が積極的に学校行事や部活動に取り組めるよう、多くの機会を設けて支援することができた。 ・ほぼ全ての部活動で県大会進出を果たし、多くの生徒が表彰を受けた。 ・HRにおいて学校行事を振り返り、生徒自身による検証を行った。
	自己指導能力の育成	・生徒との面談を通して、個々の生徒の現状を把握し生徒理解に努め、適宜支援を講じ自立を促すことで、自主・自律の精神を育む。	・悩みや問題を抱える生徒に傾聴し、生徒理解に努め、適切な支援を講じることができた。 ・自己指導能力が乏しく、他人に迷惑をかけてしまう生徒が若干みられた
	学校評価の充実	・自己評価、外部評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。 ・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。	・ICTを活用し、生徒保護者の本校への評価を把握、検討し、学校運営に活かせるよう連携を図りたい。

		・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICTを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。	・ソーシャルメディアを活用するだけでなく、生徒による小規模学校説明会を鉾田市、神栖市で実施するなど魅力を積極的に発信することができた。	
	働き方改革	・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の精選も行い、スクラップを積極的に推進する。 ・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。 ・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることができるよう努める。	・目標の達成は難しかった。次年度は学校全体だけでなく、各分掌・年次でも積極的な見直しを行い、不要な業務を確実にスクラップしていく。月45時間以上超過勤務者が月平均(4～12月)16名なので次年度は10名以下を目指したい。	
	授業改善	・生徒による授業評価における「この授業を通して、知識や技能（技術）が身に付いた」、「この授業を通して、考えたり表現したりする力が身に付いた」の質問項目で、「とてもそう思う」、「そう思う」の割合をいずれも80%以上となるよう授業改善を行う。	・5教科内でのICT授業研修及び校内授業参観を実施し、フォームを利用した参観記録の報告を初めて採用した。 ・第1回生徒による授業評価アンケート（7月）の結果（4点満点）は、校内平均は6項目が3.5、1項目が3.6であり肯定的な評価が多いことがうかがえたが、第2回アンケート(11月)では、さらにポイントが上昇し4項目が3.6となった。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	学習課題の明確化と基礎学力の定着	シラバスを活用し、目標に沿った授業の展開と学習活動の評価をする。	B	・教科内研修を通じた授業改善のためのスキルの共有 ・小論文指導の充実 ・漢字、語句、単語等基本的事項の定着
		基本的事項を確認するため、小テストを実施する。	A	
		長期休業等を利用した課外の実施で、学習内容の定着を図る。	B	
	授業改善の推進	教科内研修を通して学習指導法の共有を図り、授業改善につなげる。	A	
	読解力の養成	文章について考察し、分析する力を養成する授業を展開する。	B	
		授業や課題を通して、様々な文章に触れることで、国語への関心を高め、主体的に学習に取り組む生徒を育成することに努める。	A	
		副教材を活用し、評論用語や古典文法など読解に必要な知識の定着を図る。	A	
	表現指導の充実	文章を要約したり、意見を述べたりする活動を、授業や課題に取り入れる。	A	
		各年次と連携し、小論文の指導を展開する。	B	
		図書館部と連携し、読書感想文コンクールへの参加を促す。	A	

地理歴史 公民	・ICTを活用した学習指導の研究	・社会的な事象等について、調べる・まとめる・発表する等の教育活動を適切に設定することで、学びの質の向上に努める。	B	A	・大学共通テストへの対応を意識した授業改革 ・教科内研修を通じた授業改善と工夫の継続 ・生徒理解を踏まえた適切な学習課題の設定 ・適切な声かけによる学習支援
	・基礎的内容の定着の徹底と授業方法の研究	・基礎的知識の確実な定着、および思考力・判断力・表現力の育成に努める。	A		
		・課外授業・後期時間割・学校設定科目を通して、個の進路に応じた学力向上に努める。	B		
		・小テストを実施して知識の定着を図り、生徒の理解力を把握しながら授業を計画する。	A		
		・科目の特性に応じた教材の創意工夫に努め、「分かりやすい授業」の展開に努める。	A		
		・教員研修講座等の受講や定期考査等の作問方法の工夫を通し、共通テストに向けての対策・指導方法の研究を行う。	B		
	・現代の社会への関心の高揚	・シチズンシップ教育を踏まえたテーマを設定し、現代の社会への興味関心を高めさせる。	A		
数学	・授業改善	・課題解決的な学習課題の設定による、探究的な授業を展開する。	B	A	・継続的な教科内研修を通じた授業改善のためのスキルの共有 ・習熟度・受験型に応じた丁寧な指導 ・朝学習のプリントを活用した基本事項の定着と数学力の伸長（2年次） ・模試や入試に対応する力を伸ばす上位者向けの課外（1、2年次） ・共通テストを見据えた実践的な問題演習と丁寧な解説（3年次）
	・きめ細かな授業の展開	・少人数授業の実施により、目の行き届いた丁寧な指導を実践し、基礎基本事項の確実な定着を図る。	A		
	・家庭学習習慣の確立 応用力の養成	・1、2年次：毎日の復習としての課題に教科書傍用問題集を積極的に取り入れ、基礎の定着を図るとともに応用問題にも慣れさせる。	A		
		・3年次においては、文系理系それぞれの課題を自ら解くことにより、家庭学習時間の増加と学習内容の定着を図る。	B		
		・ClassiのWebドリルの活用を促し、数学ⅠAⅡBの基礎力向上を図るとともに、すき間時間の活用を促す。	B		
	・習熟度、進路希望に応じた指導	・2年次の数学ⅡBにおいて文系：教科書の基本事項、理系：教科書～参考書（黄チャート）の内容の定着を目標とし、習熟度に応じた指導を徹底する。	A		
		・3年次では、3・4組、5・6組をそれぞれ3分割し、受験型（ⅡB・Ⅲ）に対応した授業を展開する。	A		
	・主体性を育む指導	・1年次：長期休業中の課外授業において難度のやや高い問題を精選・提供し、生徒の数学力の伸長を図る。	B		
		・2年次：長期休業中の課外授業において習熟度に応じて基礎の確認から応用問題までを精選・提供し、生徒の数学力の伸長を図る。	A		
		・3年次理系の数学Ⅲ選択者に対しては、数学研究Ⅲと併せて一貫して数学Ⅲの実力養成を図る。上記に加えて、文系理系ともに希望者に対して放課後の課外授業を行い、実力養成を図る。	A		
		・放課後等に質問に訪れる生徒には担当年次の枠を越えて随時対応する。数学研究室をその環境として整備する。	B		
	・授業改善	・担当年次の枠を越えて日頃より各種問題の解法についての研究や意見交換、授業参観を行い、指導力、指導方法の向上を図る。	B		
		・電子黒板などのICT機器のより効果的な活用法を研究する。	B		
理科	・学力の向上	・大学入試に対応できる学力を育成する。	B		・ICTを積極的に利用

	・設備、備品の充実	・各科目で授業内容にそった実験・実習を充実させる。	A	A	し、学力の定着をねらった指導 ・設備、備品を整理し、実験・実習の充実 ・共通テストに向けた指導 ・探究活動のさらなる充実
		・実験・実習を通した体験やICT機材を活用した疑似体験を通して、抽象化しやすい科学的事象の理解促進と興味関心を涵養し、学習意欲を持続させる。	B		
		・年間を通した授業・実験・実習の計画にそって備品を整理し、実験器具等を充実させる。	A		
	・指導力の向上	・ICT機器を積極的に利用した、学力の向上を図る授業の研究。	A		
	・授業改善	・授業中の探究的活動を増やし、生徒の考えたり表現したりする能力を向上させる。	B		
保健体育	・体力の向上	・新体力テストの総合評価を伸ばす。	B	A	・生徒体力向上の支援 ・年間指導計画の推進 ・ICT活用授業の充実
		・生徒の運動時間を確保し、自ら体力を高める学習の工夫を行う。	A		
	・選択授業の充実	・選択授業を通して運動の楽しさを実感させ、自主的・自発的に活動できる能力を養う。	A		
	・規範意識の遵守	・授業を通して、ルールやマナー及び時間や安全を守る態度を養う。	A		
	・授業改善	・保健ノート、パワーポイント、DVDなどの副教材を活用し、わかりやすい授業の展開を図る。	A		
芸術	・主体的表現活動	・芸術に関する各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。	A	A	・様々な表現方法の技術支援 ・個々の感性・技術力の育成 ・科目間のさらなる交流 ・ICTを取り入れた授業展開
		・創造的な表現を工夫し、芸術の良さや美しさを深く味わったりすることが出来るようにする。	A		
		・シラバスを活用し、課題への準備を促す。	A		
		・視聴覚教材等を利用し授業の展開を図り、授業への積極的な参加を促す。	B		
		・鑑賞に関する資質・能力を育成する。	B		
	・芸術を愛好する心の育成	・生涯にわたり芸術を愛好する心情を育み、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。	A		
		・上級進学をめざす者へ補習等を実施し、個々の力を伸ばす。	A		
		・個人指導の充実を図り、添削や助言等を示す。	A		
	・授業改善	・科目間の交流を深め、より良い授業を展開できるようにする。 ・積極的に発表する機会を設ける。	A		
英語	・シラバスを活用し具体的目標を意識させた学習習慣の確立	・シラバスを活用し、主体的に生徒が学習できるようにする。	A	A	・目標及びねらいに対しての具体的方策の共有 ・授業見学等とおした授業改善の促進
		・シラバスの内容をさらに充実させ、生徒にとっては利用しやすく教員にとっては指導目標が共有できるものとする。	A		
		・意欲的に英語学習ができるよう英検、ALTの活用を促す。	A		
		・確認テスト等を適宜実施し、学習の習慣化を一層図る。			
	・生徒の多様な学力に応じた指導の充実	・1年次：少人数授業の利点を生かし、予習・授業・復習のサイクルの確立を図る。新テストでも必要とされる4技能を総合的に伸ばせるよう、活動と指導法の創意工夫に努める。	A		
		・2年次：各科目で課題を工夫し家庭学習につなげるとともに自立学習できるよう促す。「話す」・「書く」のアウトプット活動を行い適切に評価することで4技能を総合的に伸ばすことに努める。	A		
		・3年次：家庭学習と授業を接続し、科目の特性に応じて、予習・授業・復習のサイクルをまわすことで、主体的な学習スタイルを確立する。入試を見据えた実践問題も多く扱い、英語得点	A		

		力の向上に努める。			
		・成績下位者へのフォローを補習などで確実に行う。	A		
	・生徒の希望進路に応じた様々な指導と実践	・進路実現のための英語力向上を目的とした指導に加え、個々の学習到達度を確認するための単元テスト、パフォーマンステスト等を実施する。	A		
		・英検やGTEC、模擬試験等を有効に活用しながら、共通テストにも対応する英語力の育成を意識した指導を実践する。	B		
		・目標校の問題傾向を意識した指導、レベルに応じた問題演習を行う。	A		
		・教科内で情報交換を深め、指導目標を共有し、3年間を見通した上での指導が展開できるよう協力し、同時に各人が個々の指導力の向上を目指す。	A		
		・授業における効果的な指導法・評価方法について、研修会参加等を通じて研鑽・研究を進める。	B		
	・英語4技能の向上	・1、2年次では、ICTをうまく活用しながら、「聴く・話す・読む・書く」の4技能包括型活動を積極的に取り入れた授業を実践する。	A		
		・3年次では特に論理的に考え、社会的な事柄について英語で表現する能力を伸ばす。	A		
	・授業改善	・ICTを活用した授業実践を行う。	B		
		・生徒の学習活動を中心とした授業を行う。			
家庭	・生活を主体的に営むために必要な基礎的知識と技能の習得	・生活実態に応じた実践的・体験的な活動を多く取り入れ、生活に関する基礎的知識と技能を習得できるようにする。	A	A	・ICT機器を積極的に活用し、生活課題の解決を目指した授業展開 ・個に応じた支援 ・各種研修への参加
		・個に応じた指導を行う。	A		
	・自分や社会、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的態度の育成	・家庭や地域及び社会における生活の中から課題を見いだし、解決を図る学習を通して生涯を見通して生活課題を解決する力を養う。	A		
		・ICT機器を活用し、生活に関する情報を積極的に取り入れることができるようにする。	A		
	・授業改善	・各種研修に参加し、指導力、指導方法の向上を図る。	B		
		・ICT機器のより効果的な活用法を研究する。			
情報	・情報セキュリティ意識の向上	・情報活用に関する興味関心を持たせるだけでなく、情報化の負の部分に配慮し、情報モラルやセキュリティに対する意識を涵養する。	A	A	・教科横断を意識した授業展開
	・授業改善	・データの収集・作成・活用やプログラミングについて、基本的な技術を習得し、問題解決に活かせるように努める。	B		
教務	・授業時数の確保	・授業時間の確保とともに、カセットの曜日調整により曜日毎の授業時数の均等化を図る。	A	A	・日課変更に対応した曜日等の授業時数の均等化および計画的、効率的な授業推進 ・学習の振り返りやICTの有効活用による主体性の育成と学びの個別最適化
	・主体性を育む授業指導法の確立および生徒の学習調整力の向上	・ICT機器を積極的に活用し、生徒の主体的・対話的な授業を通して、より深い学びに繋がる授業展開の方策を研究する。	B		
		・学習の振り返りを実施し、教師は学習指導法を、生徒は自らの学習を調整し、教師、生徒双方のより効果的な指導および学習に繋げる。	A		
	・評価方法の確立と授業改善	・生徒の学びを適切に評価できるよう本校の観点別評価の在り方の確立に向け研究を継続する。	B		

		・「教科内授業研究」(年3回)や「生徒による授業評価」(授業アンケート)を実施することで実態に即した効果的な学習指導方法の研究および授業改善を図る。	A		・修正をした日課や教育課程の検証および改善 ・「授業評価」結果の分析および授業の工夫・改善 ・年間を見通した上での行事計画の作成、見直し ・考査の円滑処理の推進および成績内規等の見直し
・進学重視型単位制の充実	・本校生や地域のニーズに対し新教育課程が適切なものとなっているか検証を継続しながら、一層のカリキュラム・マネジメントの推進を図る。		A		
			A		
	・行事等の円滑な運営	・各分掌と連携して学校行事の日程や日課の調整を行い、コロナが落ち着いても意図的に対面行事、リモート行事を設定したハイブリッド型学校運営を推進していく。	A		
		・総務企画部と連携し、校務支援システムの機能を有効活用した成績処理や各種帳票類の作成を円滑に進める。	A		
総務企画	・本校の魅力や生徒の活動を積極的に発信し、附属中を含めた「銚一ブランド」の確立 ・本校に対する外部の声の収集	・スクールガイド、ポスター(3種類)の作成。	A	A	・災害時(台風、降雪等)の情報資産の管理、運用 ・全職員が安心、安全に情報資産を利用できる環境の整備 ・学検、入選前の広報活動の活発化(演劇部生徒による学校紹介動画作成、秋ポスター、学校説明会&mini文化部発表会、中学校での進路説明会、Facebook、ホームページ等)
・持続可能な情報環境の維持と情報資産の有効利用		・プロモーションビデオの活用。	A		
		・中学校訪問の実施。	A		
		・進学フェアへの参加。	A		
		・オープンキャンパス(中学生対象)の企画、運営。	A		
		・学校公式ウェブページの内容の充実。	A		
	・学校評価アンケートの実施、集計、分析。	B			
	・事務室と連携し、校内の各セグメントの効率的な運用と管理を目指す。	B			
	・情報端末機器(PC・タブレット)の保守・管理に努める。	A			
	・緊急情報メールシステムの有効な運用に努める。	A			
	・校務支援システムの管理・運営を行い、有効な運用に努める。	A			
・情報セキュリティの実施手順に沿って、情報機器等の扱いに関する内規等を整備する。	A				
・茨城県教育情報ネットワークの教員用アカウントならびに生徒用アカウントの管理・運用に努める。	A				
生徒支援	・安心、安全な学校の維持 ・自主、自立した生徒の育成[自己指導能力の育成] ・生徒理解 ・生徒との協働 ・報告、連絡、相談の徹底による初期対応	生活関係	B		
		・日常的に生徒の行動を把握するとともに生徒が相談しやすい関係を構築し、いじめのない学校づくりに努める。	B		
		・登校指導を実施し、挨拶の励行・時間の厳守・正しい制服の着こなしなど、基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成に努める。	A		
		・「ながらスマホ」の危険性やスマートフォンの正しい利用について、インターネット安全利用講話及びHRにおいて注意喚起する。	B		
		・日常的に生徒観察に努め、生徒に寄り添い、傾聴する。	A		
		・生徒(会)と話し合う機会を定期的に設け、校則の見直しを行う。	A		
		・日常的に教員間の情報交換を行い、教員相互の連携強化を図る。	A		

	・スクールバスの円滑、安全な運行 ・交通安全の確保	交通関係	B		・構内におけるスクールバスの安全な運行支援 ・「相談室だより」による広報活動 ・アンケートの実施と分析・検討を実施 ・スクールカウンセラー、校内関係者との連携の援助 ・校内研修会実施
		・運行計画の策定と安全確保のための乗降指導を行う。	A		
		・交通指導の実施。	B		
		・原付バイク実技講習会の実施。	C		
		・自転車点検及び交通安全指導の実施。	B		
	・支援が必要な生徒の早期発見	・『相談室だより』などによる生徒・保護者への広報。	A		
		・「教育相談アンケート」の実施と、その結果の分析・検討。	A		
		・生徒情報の整理と関係者によるミーティング。	A		
	・適切な援助活動の実施	・援助が必要な生徒との面談・必要に応じて保護者との面談。	A		
		・保護者、校内関係者間の円滑な連携の援助。	A		
		・スクールカウンセラーとの連絡、調整。	A		
		・特別な支援を要する生徒についての情報交換及びケース会議。	A		
		・校内研修会の計画と実施。	A		
進路指導	・3年間を見通した体系的な進路指導の実施	・定期的に部会を行い、3年間を見通した進路行事の計画的な運営について調整する。	B	A	・入試制度の変化に応じた進路支援計画の見直し ・模試分析における年次および教科との情報共有 ・放課後・長期休業中の課外授業の計画的実施および効果の検証 ・進路支援に関する附属中学校と高校の連携強化 ・進路支援に関する校内研修会の実施
		・1年次では進路講演会・職業講話等を通して進路適性の把握と職業観の育成に努め、進路実現のための視野を拡大させる。	A		
		・2年次では進路講演会・大学出張講義・卒業生と語る会等を通して学部学科研究などの進路知識を拡大させる。	A		
		・3年次では進路検討会議等を通して生徒の進学希望を各教科担当者間で共有し指導に活かすとともに、面接・小論文指導等を充実させ、生徒の多様な進路目標実現を支援する。	A		
	・進路情報の収集と提供	・各年次や教科で模試結果の分析を行い、指導上の課題を明確化するとともに、職員間で情報の共有化を図る。	A		
		・生徒面談等を通して、生徒の動向の把握に努め、適切な情報提供を行う。	A		
		・高大接続改革や共通テストに関する情報の収集と分析を行い、指導に活かす。	A		
		・『進路資料』の発行や情報誌の配布などを通して、生徒・保護者に適切な進路情報の提供を行う。	A		
	・学力向上	・平日の家庭学習時間「学年数＋1時間」、休日の家庭学習時間「学年数＋2時間」を最低ラインと位置づけ、家庭学習計画表等を活用しながら、家庭学習の習慣化を図る。	A		
		・放課後・長期休業中の課外等の特別講習の充実を図る。	B		
		・授業力向上のため、長期休業中に実施される教育研修などへの参加を勧める。	A		
	・学習環境の整備	・平日や休日に自学自習の場として尚志館を開放し、生徒の自学自習の習慣化を図る。	A		
	・附属中学校との連携	・附属中学校と連携し、中高一貫の進路指導の方法について検討を進める。	B		
特別活動	・学校行事の改善	・魅力ある行事の実践に向けた、活動内容に対する丁寧な検証。	A	A	・各年次および他の分掌との密な連携による行事の運営 ・中学生との交流が深まる行
		・生徒が主体的に企画・運営に関わることができるための多角的な支援。			
		・学びの蓄積および振り返りを行うためのキャリアパスポートの活用。			

	・生徒会活動の活性化	・生徒会役員が生徒代表としてリーダーシップを発揮できる場の提供。 ・附属中との交流の場を増やすための連携体制の構築。	A		事の実施 ・集会等、委員会生徒が主体的に活動できる機会の確保 ・部活動に係る活動方針に則った効果的な指導法の研究 ・教室以外でのHR活動実施機会の創出
	・委員会活動の活性化	・各種委員会の活動内容に対する見直しと、各種委員の活躍の場の積極的な提供。	A		
	・部活動の活性化	・部・同好会への加入率80%の達成に向けた積極的な啓発。	B		
		・生徒が活躍できる各種大会・発表の場への積極的な参加の支援。	A		
		・規範意識や協働性の育成を進める指導法の研究および活動環境の整備美化。	A		
保健安全	・HR活動の充実	・レクリエーション等、独創性のある活動を通じた協調性や団結心の涵養。	A	A	・保健相談、保健指導及び保健室運営の充実 ・清掃活動及び環境整備の充実 ・安全防災対策の工夫・充実 ・各種報告事項の的確な遂行
	・保健衛生的習慣の確立	・健康診断の実施等により、健康状態の把握と的確な保健指導を行う。	A		
		・適切な応急処置と保健相談活動を実施する。	A		
		・『保健室関係資料』を周知し、保健室運営を円滑にする。	A		
	・清掃活動の徹底	・清掃活動を励行し、校舎内外の美化・環境問題への意識を高める。清掃用具の充実を図る。	B		
	・安全防災対策	・『危機管理マニュアル』の見直しを図る。	A		
		・安全点検を実施する。	A		
		・避難訓練等を実施し、災害への意識の啓発を図る。	B		
	・環境衛生の整備	・学校薬剤師の助言のもと、環境衛生検査を定期的に実施する。	A		
	・学校欠席者情報システムへの報告	・各年次・学年、各担任の協力を得て記録、報告をする。	A		
図書館	・日本スポーツ振興センター保険の活用	・部活動、年次・学年と連絡を密にして有効に活用する。	A	A	・図書廃棄の円滑化 ・書架整理の推進 ・委員会活動を通じた広報活動の工夫
	・放射線量の測定	・放射線量の測定と報告を行う。（5・11月）	A		
	・資料の整備充実と情報化の推進	・図書の購入希望調査を行い利用者のニーズに応えるとともに、バランスの取れた蔵書構成を目指す。	B		
		・規定に則り、図書の合理的廃棄作業を進め、図書資料の更新に努める。	A		
		・ICT機器を活用して情報化の推進をはかり、探究活動を支援する。	B		
	・図書館利用の促進	・読書感想文・感想画コンクールへの応募等を、教科と連携して行う。	A		
		・適切な利用態度を養い、学習の場としての活用も推進する。	A		
		・読書関連のイベントを企画し、読書への関心を高める。	A		
渉外	・委員会活動の活性化	・広報活動や行事・研修等を通じて、図書委員の主体性を養う。	A	B	・さわやかマナーアップの実施 ・文化祭グッズ製作 ・生徒会・保護者・教員との交流
		・生徒図書委員研修会（県東・中央）に参加し、各高校との交流により委員会活動の活性化を図る。	A		
	・学校と家庭の交流の充実	・学校行事への保護者の参加率を上げ、本校への理解を促す。	A		
	・状況に応じた事業の遂行	・開かれた学校、情報公開を念頭に、協力を得られるよう努める。	B		
		・状況に応じた対応ができるよう、関係部署との綿密な連携を図る。	A		
	・後援会費の見直し	・保護者・生徒にとって有益な利用方法を考慮する。	B		

1 年次	・基礎学力の向上	・義務教育段階の学習内容の定着度にあわせ、目標の設定と振り返りを通して個々の生徒に応じた基礎学力の向上と学習習慣の確立を目指す。	B	A	・基礎学力の向上と学習習慣の確立をめざした各科における指導法の工夫 ・探究活動における手立ての工夫と見通しをもった指導の確立
	・自己管理能力の形成	・基本的生活習慣を土台としたマナーやモラルを大切にする態度を涵養し、人間関係形成・社会形成に欠かせない自己管理・自己抑制能力を形成する。	A		
	・自己理解・社会理解の促進	・総合的な探究の時間を中心とした課題解決型学習を通して、社会と連携・協働しながら取り組みを充実させることで自己理解・社会理解を促し、生涯にわたるよりよいキャリア形成の基盤を作る。	B		
	・自己肯定感の発揚	・個人面談や部活動、特別活動への積極的参加、自己肯定感につながるような充実した学校生活への取り組みを目指す。	A		
2 年次	・基本的生活習慣の確立	・基本的生活習慣を確立させるとともに、スマートフォンやタブレットの使い方について、生徒自身が有効な活用方法を判断できるよう指導する。	B	A	・自己実現に向けて計画的かつ自律的に行動できるようになるための手立ての工夫 ・知識の定着と実践的な問題解決や応用能力の向上
	・進路実現に向けた学習習慣の定着と学力の向上	・知識の理解・定着を促すため、予習・復習を柱とした学習習慣の確立と手帳等を利用した自己管理、計画を立てて実行する力の伸長を図る。	B		
		・高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図るため、授業を第一とし、Classi や模試の復習に主体的・継続的に取り組ませる。	A		
	・特別活動への積極的参加と総合的な探究の時間とおした社会の当事者意識の涵養	・多面的な生徒理解に努め、部活動や学業、探究活動における情報交換を密にし、個々の生徒が力を発揮して活動できるようサポートする。	A		
		・探究活動をとおして興味関心を深化させるとともに、社会とのつながりを意識させ、生涯にわたるキャリア形成の基盤を作る。	A		
3 年次	・意思や感情に左右されない知性の育成	・ニュースや本などを通じて様々な情報に触れることを奨励し、新しい知識、考え方、世界、想像力を磨く。	A	A	・進学先や就職先の情報を細かく調べたことが自身の将来像を具体化し、感情に左右されない知性や望ましい人生観の醸成につながった。将来は公共機関勤務を志望する生徒が多い。 ・年次職員間の情報交換が担任からだけでない助言を生み、生徒の進路目標に挑戦する気持ちを後押しした。年内に進路決定した生徒も主体的・継続的に学習習慣を発展させた。
		・情報を取捨選択する能力を育み、権利と責任を有する成人として生きるにふさわしい社会観や人生観を醸成し、生涯にわたるキャリア形成のための実践的能力を伸ばす。	A		
	・進路実現に向けた学力の向上	・課外授業の拡充を図り、個に応じた学習指導を実践する。	A		
		・授業を第一とし、学習アプリ（Classi・スタディサプリ）や模試の復習にも主体的・継続的に取り組むことで、高い進路目標へ挑戦する意識の高揚を図る。	B		
		・生徒の小さな違和感を見逃さないよう平常時の表情等の把握に努め、年次職員間の情報交換を密に行い、精神的な健康や学習習慣を維持・発展させる。	A		
	・自己管理能力の定着と社会に貢献するリーダーの育成	・生徒から助けを求めることができる環境を整えることで自己実現に向けた自立（自律）を支援し、どうにも対処しようのない事態に耐えられる力を身につける。	A		
		・身なりや態度についての日常的な支援を通して、マナーやモラルを大切にする態度を涵養するとともに、社会の形成者として欠かせない自己管理能力を向上させる。	B		
		・綱領である剛健勤勉・独立自治・和衷協同に励み、グローバルな視点と行動力を持つ自身の将来像を具体化する。	B		

※ 評価基準 A：大変良くできた B：良くできた C：普通 D：やや不十分 E：不十分